

本種は 1 年草で、草丈は 1 m 内外に達し、葉は対生、羽状複葉をなし、各小葉は線状披針形で、葉辺に顕著な粗鋸齒をもつ。花は本種の米名 Tickseed-Sunflowers が示すように、本属の中でも可成り大きく、ちょうど Fig. 1 の如くヒメヒマワリの花型を想わせる外観を有する。舌状花弁は濃黄色を呈し、6~10 個で、長さ 2 cm 内外。なお Fig. 2 に示すように、外側の総苞片は線状で 10 内外、ほとんど無毛であるが、辺縁にわずかに毛を有する。因みに本種は、同じく北アメリカ原産の *Bidens polylepis* Blake に酷似しているが、これは種名が示すように、外側の総苞片がより長く、数も 12~25 と多く、しかも有毛であるので区別出来る。しかし、この両者は極めて近縁のものであって、これを別種とせず、本種の範疇に含め、変種とする見方もある。

本種は元来、低湿地を好んで生育するもので、8~10 月にかけて開花する。恐らく今後、各地の同様な条件の場所に分布する可能性があり、同学諸氏の注意を望みたい。なお和名は、比較的瘦長な花茎に、可憐な大形の舌状花をつけることに因み、オトメ(乙女)センダングサの名を与えた。

Summary A North American Beggar-ticks, *Bidens aristosa* (Michaux) Britton was newly recorded from Japan as an alien weed. The plants were found on sunny waste site of Shinagawa, Tokyo, central Honshû in Sept. 5, 1970. (東京歯科大学)

○ヒートシールによる標本貼付 (金井弘夫) Hiroo KANAI: Heat seal method, a new idea on mounting specimen.

我が国では標本を貼付するには紙テープと糊によるのが常道である。東大での方法は和紙にアラビア糊を塗って乾かしたものを細く切っておき、必要に応じてこれを更にアラビア糊液でぬらして貼付に用いている。この糊付和紙は特注品であるが、最近では手数がかかるため職人が作るのを好まなくなっている。と云って、ただの和紙とアラビア糊では接着に時間がかかり、強度も落ちる。また湿式であるために色々と不便も多く、理想的なやり方とは云い難い。

ここに紹介するのは、簡単に言えばポリエチレンを接着剤として紙テープをハンダ鍋で熔着する方法である。最も原始的には紙テープと台紙の間にポリエチレンシートの小片をはさみ、熱いハンダ鍋で圧せばよい。しかしこれではポリシート片をはさむのに手間がかかり、熔けたポリエチレンがはみ出したりして見映えが悪い。白色のポリエチレンラミネート紙が手に入ればこれを細く切って用いるのが最も便利である。これが手に入らなければ、ゴム板の上にポリシートと和紙を重ねてアイロンをかければラミネート紙を作ることができる。ハンダ鍋は先端を斜形に削って圧着に便利ようにし (Fig. 1), 柄を切り縮めて扱い易くする。温度が上りすぎると紙を焦がすので、適当な電流調節装置をつけるとよい。

このようにして貼付けた標本は、従来の方法によるものと外見上全く差は無い。しかもテープの接着力はアラビア糊より強く、小面積の貼付で目的を達することができる。また瞬間的に固着するので貼付作業の時間を短縮できる。紙テープはポリエチレンで裏打ちされて強化されるので、従来のものより薄いもので足りる。また鋸を当てたままテープを引張ると簡単に切ることができるので、従来の様にあらかじめ鋸で切る必要がなく、手数が大変省ける。

ラベルや小袋などを貼付するには、その下にポリエチレンシートの小片をはさんで数ヶ所で熔着すればよい。またこわれ易い花などは上にポリシートをかけ、周囲を紙テープでふち取りしながら熔着する。

Summary An idea to mount botanical specimens with polyethylene laminated paper-tape and electric soldering iron is recommended as an easier and more convenient method than the one with paper-tape and glue heretofore in use.

(東京大学総合研究資料館植物部門)

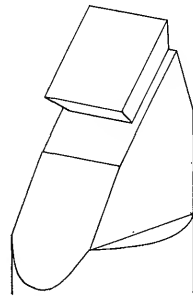


Fig. 1. Tip of the soldering iron.

○ハルサザンカの2新品種 (山崎富佐子) Fusako YAMAZAKI: Two new cultivars belonging to the *Camellia vernalis* group.

最近、浜松市の植物愛好家、前田勝宏氏が2種類のハルサザンカを同定のため、お茶の水女子大学の津山尚教授のもとに送って来た。前田氏はツバキでもサザンカでもなく不審に思われたようであるが、両者ともツバキとサザンカの中間的性質をもつハルサザンカの新品種と思われる。現在ハルサザンカと推定されている園芸品種は約20種あるが、今回のように人家に栽植されているものが発見されることは大変珍しい。1月31日津山先生と現地を見学したので報告する。

1. 竜光(リュウコウ) 浜松市近郊の旧家の邸内にある。かつては隣家の邸内にあったらしいが、明治中期に敷地と共に買取られたという。由来については殆ど何もわかっていない。ただ同家の老夫人(現在生存しておられれば85~6才)が「ワビシツバキ」と呼んでおられた由である。その名の如くひっそりと100年以上も咲いていたのであろう。

樹高一約4.5m、幹まわり71cm(地上1m)地上約3mの所で切断され、数本の枝を出している。花は赤色(標準色鑑一興林会による)、一重咲筒心、やや盃形に開く。弁数6~8弁、花卉の基部と花糸の基部は3~5mm癒着し、花卉とおしべ群は散らないで落下する。萼苞は満開時に殆ど落下する。花径は6~6.5cm位、花卉は細長い倒